

野田市郷土博物館・市民会館  
令和6年度第1回博物館懇談会

日時:令和6年11月14日(木)17時~18時30分

場所:野田市郷土博物館1階展示室、野田市市民会館 市民つどいの間

出席者:博物館懇談会委員・沼野秀樹、横川しげ子、米川幸克

郷土博物館・杉山一男、柏女弘道、寺内健太郎、奥村麻由美、後藤智輝(書記)

議題:

1、特別展「茂木佐平治邸の百年—醤油醸造家の邸宅から市民会館へ—」について博物館展示室にて柏女学芸員より展示解説を行った(議事録省略)。その後、市民会館つどいの間に移動し意見交換を行った。

●意見交換

館長:それでは、ご意見いただく前に補足説明をさせていただきますのでよろしくお願ひします。

柏女:ホチキス留めをした資料の方、令和6年度特別展の中間報告というのをご覧ください。アンケートの集計ですとか、関連事業の様子が付いています。11月13日、昨日までのところでの入館者は3000人くらい。カウンターで、ですね。一日平均は88.6人、通常程度かと。アンケートは47枚。市外の方が多いです。6割強ですね。市民参加型の企画展よりも特別展は若干市外の方が多くなっていて、ほかの今までの特別展と同じくらいかなと思っています。初めての方とリピーターの方が半々くらい。年代としてもやはり高齢の方が多いのですけれども50代の方がけっこう多いかなと。いつも60代~80代が多いのですが50代がそれと同じくらい多いというのは、もしかしたら建物に興味ある方が多いのかなとも思います。開催を知った情報媒体としてはやっぱりポスター・チラシが多くなっています。比較的友人知人の紹介が、多いです。市報と同じくらいあります。内容評価としては6割強は大変良かったということと、その次に多いのがまずまず良かったと。いろいろな意見がある中でちょっと抜粋というか。まとめたのがやっぱり昔の邸宅の写真とか図面とか、屋敷の変り方とか歴史を知ることができて良かったという意見が一番多かったですね。あとすごく嬉しいなと思ったのが、何気なく使っている市民会館の歴史や細かい細工など見つけられてよかったと。おそらくお部屋の利用者の方々だと思うのですがそういった方が展示を見て、改めて建物を見てくれたというのがすごく嬉しいなと思っています。

2ページ目は関連事業ですね。3つありまして、学芸員の展示解説の方を6回行っております。先ほど展示室でしたような感じで1回30分ですね。今現時点で3回、何れも10人ちょっと来ております。結構それを目的で来た方が多かったです。2番は茂木佐平治邸季節の建具・家具公開。これは展示室にあった夏障子とか公開するもので、(資料の)左側の写真が夏障子を設置した奥のお部屋、それで真ん中の写真が掘りごたつを、月の間ですね。

後は邸内の各所に解説パネルを置きまして、10時と14時の2回、予約不要で、私の方で邸内の解説ツアーを45分くらいでやりました。これも10月の初回以外は10人以上参加していただきました。特にこの間の11月は19人、16人と非常に多くの方きていただきました。やっぱりそういう話を聞いたうえで見るとすごくいいという感想をいただきました。もうひとつは講演会ですね。これは11月23日にやるのですが、東海大学の建築の先生に、お御屋敷の魅力と、市民の方が使っている地域の文化財という視点からもお話いただきます。定員30名で、今定員少し超えて取っているのですがもうそろそろいっぱいになります。

これが展示の関連事業でして、あとですね3、4ページの方ですね、展示そのものではないのですが、今年が茂木佐邸100周年ということで、今年度の頭からこの展示以外にも100周年記念事業と冠を付けたものをいくつかやっております、またこれからもやる予定ではあるのですが、それについては担当の方から。

**館長：**特別展をご覧いただいて、さらに関連事業も。見た感じ聞いた感じで、またご意見ご感想いただきたいと思います。

**委員：**はい。いつも私よく言うのですが、現物があって、その歴史なんかやった時はやはり対比してみるのが一番よく理解できるんですよね。今回ほんと、あるのに対して同じ見方で写真撮ったり、非常によくわかりましたし、興味も沸いたし理解も深まったと思います。何気なく使って、利用させていただいているのですけれども、あー！という風に思う発見がいっぱいあって、今回ののは非常におもしろかったです。ありがとうございます。

**委員：**全く一緒にほんとに興味がある、ちょっと子どもたちには難しいかなという感じでしたけど、もちろんね、こういう子どもだけじゃなくて大人向けに、大人向けという言葉が変だけど、とても建築とか興味ある方また歴史に興味ある方にアピールする内容だったんじゃないかなと思います。

**委員：**毎回（貸部屋を）お借りしていて、このガラスはもうできないから（作れないから壊したら）ダメと利用者の方にね、常々（言っています）。そのほかにもたक्सの、夏障子とか、なかなかそういうゆとりがない生活の中で、暮らしを豊かにしてたんだと、残して、伝えてくださることに感謝しています。先ほどね、玄関のところ（襖の木組み）もちょうど一枚なくなってしまっていたと。

**柏女：**なくなったところは新しくつくって。

**委員：**昔のものを、その時代にあったものを残して行って、残していく大事さも感じました。また展示もとても分かりやすくて良かったです。

**館長：**ありがとうございます。では次、先ほどの説明の続きを担当ごとに。

**寺内：**次のページに行きまして。今年度市民会館のほうが建築100周年ということで、通年でいろいろやっていますけれども、今回しかできなさそうなものをいろいろ試してみたいとか、こういうのをやったらいいんじゃないかなということで、「100周年記念事業」と冠を付けて普段できないことをやったということで、まず一番上にあるひとつ目がレコードを聴いてみようという講座です。こういったお屋敷が実際に使われていた頃もやはり

レコードを聴いていた時代だということもあり、またちょうど市内に中川喜介さんというレコードをお持ちで、何万枚も持っている中から、昭和 30 年代、ちょうど市民会館が立った頃ですね、その頃のレコードを流していただきながら、後半は結構中川さんのある程度個人の収集でもあるので好みとかも出てくるのですけれども、中川さんのほうはアメリカンヒットパレードを日本人の歌手がカバーするようなものを聞いたりということでレコード鑑賞会を行いました。参加者は 20 人ということで、定員いっぱいまで申し込んでいただいて、参加者同士で懐かしんでいるようなお話もあったり、質問しあったりみたいなものも見られたということになります。

2 番目の方になりますけれども、夏休みに土器の展示を以前やっていたけれども、そうではなくて博物館の収蔵品ですね、普段なかなか出せないようなものを出すという形で最近展示をやっておりますけれども、この企画展の方は市民会館 100 年と、茂木佐平治邸のことを特別展でやるということで、それと関連させて野田の醤油に関するコレクションをたくさん出して、茂木佐平治百年の展示に向けて、前から盛り上げていけるかなということで、展示を行いました。それぞれしょうゆと言っても、いろいろな分野のものがあるので、例えば昔当館で「しょうゆの印」という展示をやって、その時は広報物、印というところに注目して、それで特別展ができてしまうようなところですけども、今回はなかなか出す機会もないので少しでも多く、いろいろなものがあるよというのをみてもらおうかなということで、醸造関係のものと容器ですね、樽であるとか壺みたいなものであるとかと、広報系のもとか、様々なジャンルのものを出させていただきました。これでちょうど地域づくりネットワーク事業の中でキックマンさんや、東京理科大学さんと連携することができまして、こういったところもご協力いただくことができたというような形となっています。

4 番目は「狂言に触れてみよう」ということで、狂言の鑑賞会ですね、市民会館を利用して伝統芸能、芸術文化に触れていただきたいということで開催しました。特に市民会館の松竹梅の、松の間を舞台にして、竹・梅の間を客席として、演者さんとお客さんと距離が大変近いというような形で公演ができるというのが市民会館のひとつの特徴でもあり、狂言とかですと松の木が舞台の上にあたりしますけれども、本物の松が（舞台とした松の間の奥の）松樹庵の前にありますので、そういった風景もそのまま使ってできるということもあり行いました。小梶直人さんほかお二人、小梶さんは野田出身の能楽師です。その方にご出演いただいて、ワークショップのようなこともやりながら見ていただいたという形になります。

最後もうひとつ、これはこれから開催するもので、今参加者を募集中です。まだそんなに集まってはいないので、今チラシの方を皆様方にお配りしております。「市民会館杯野田かるた大会」というですね、野田かるたという郷土かるたを使ったイベントです。NPO 法人レクリエーション協会で作っていて、当館でも販売しているものです。レクリエーション協会の方で独自に清水公園の脇にある総合公園の体育館のところで年末にか

るた取りやっているのですけれども、やっぱりかるた取りは和室でやったらいいんじゃないかなということと、市民会館に来てもらうきっかけになるかなということ、お正月の月に合わせてかるた取り大会をできればなというところでいま募集しているということです。審判などは協会の方にご協力いただきながら、市民会館杯ということで銘打って、試みとしてやってみるということにはなるんですけれど、こういうような形で 100 周年ということいろいろ普段やらないこともやってみようということです。

**柏女：**3 番のところは、夏障子の公開、これが今年市民会館となってからはじめてやったところで、2 日間やったのですが、夏障子だけではなくて、いけ花協会の方にご協力いただきまして、季節のお花を邸内にいけていただきました。夏ということもあって花がもつというのは 2 日間ぐらいが限界だったので、2 日間の公開期間となりました。いけ花協会の方々の知り合いもかなり多く見に来てまして、アンケートが大体 30 枚くらい集まって、すべて確か「大変良かった」で。やはり建具だけじゃなくていけ花も一緒にあって、それがすごく季節感もあってよかったという話がありました。非常にこれはありがたいことで、我々だけではできなかった、いけ花協会の方がいてこそできた事業かなと思っています。これもあわせて上花輪歴史館の、おそらく向こうは毎年 6 月の終わりから 7 月まで夏障子公開をしているので、今回はうちも公開するので合わせてチラシに載せさせていただいて相乗効果を期待していました。それが手ごたえあったので今回の特別展でも、夏じゃないですけど季節の建具公開ということで出そうかなということを出している次第です。百周年ということで今いった事業をやったり、あとは市の方で畳を入れ替えてくれたり、博物館の方でも襖を修繕したりとか、これを機に見てもらおうということも気を使っていけたらと思います。百周年の記念事業では銘打ってはいなかったのですが、春にやった室礼の方々の企画展というの、ここをやっぱり会場に飾っていただいているので、今年はほんとに市民会館に寄った展示がそろっています。季節の飾りつけを見に来る方も非常に多い。貸出場所と見る場所と両立していけたらいいかなとは思っています。

**館長：**今ご案内したとおり今年 100 周年ということでそこに寄せて茂木佐邸に合うような雰囲気の仕事、展示を展開してきました。今柏女の方から話もあったように以前から室礼の会でひな人形の展示とかいろんなこともご協力いただいて特定の見学の日を設けるとい、夏障子の公開もそうだったんですけど、そういう形で普通の一般、通常の利用者（貸部屋の利用者）とは別の方を呼び込んでいこうという試みをしています。夏障子を見に来た方も市外の方もいらっしゃいましたし、それからガイドの会が案内する団体も市外も多いので。今までの利用も当然大切ですけども、市の魅力を外に知らせていくということで、良い施設、魅力ある施設だと再認識しましたので、今後もそういった展開をしていくということを考えております。さらに言えば博物館単独で動くとなかなか人を集められないので、例えば先ほどあったように夏障子であれば上花輪歴史館さんと協力して同じ時期にやっているのでと広報打って、やっぱり相乗効果あったようですし、それからしょうゆの展示についても、あちらこちら、キッコーマン国際食文化研究センターとかそういっ

たところと相乗りになって見に来てくれる人もいましたので、そういったことも含めながら博物館・市民会館で人を呼び込むようなことを工夫していきたいと思います。

追加の説明をさせていただきましたけれども、ここについて質問やご意見はありますか。

**委員一同：**(特に意見等は出ず)

**館長：**では次はまた2月下旬から3月あたりに、来年度の事業を報告させていただきます。よろしく申し上げます。長時間ありがとうございました。